

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（平成31年4月1日現在）

団体名	天竜浜名湖鉄道株式会社		
所在地	浜松市天竜区二俣町阿蔵114-2	設立年月日	昭和61年8月18日
代表者	代表取締役社長 長谷川 寛彦	県所管課	交通基盤部地域交通課
設立に係る根拠法令等	会社法、鉄道営業法、鉄道事業法		
団体の沿革			
運営する施設	鉄道施設(自己所有)		
団体ホームページ	https://www.tenhamaco.jp		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	39,700	39.7
沿線市町(6市1町)	39,700	39.7
民間事業者	20,600	20.6
基本財産(資本金)計	100,000	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	3	常勤職員	73
うち県OB		うち県OB	
うち県派遣	2	うち県派遣	
非常勤役員	8	非常勤職員	
役員計	11	職員計	73

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

地方鉄道業等を主に営むことを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

天竜浜名湖鉄道は、旧国鉄二俣線の線路を引き継いだ第三セクター鉄道であり、通勤・通学・通院など地域住民の日常生活の足として、重要な役割を担っている。
また、鉄道沿線は歴史的文化遺産や豊かな自然に恵まれており、鉄道はそれらを活用した地域活性化に寄与する取組を期待されている。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会 経済環境の変化や 新たな県民ニーズ	平成30年度は、NHK大河ドラマに関連する来訪者の減により、前期比4.9%減となったものの、その影響のない平成27年度と比べると、1.5%増と概ね順調に推移している。
行政施策と団体活動 との関係(役割分担)	地域の公共交通として安全で安定した列車運行を持続するため、老朽化した鉄道設備の改修や想定される大規模地震対策を計画的に推進するとともに、コスト削減の努力を継続しながら鉄道事業収入をはじめ総収入の増加に努め、収支構造の改善と公的負担の軽減を図る。 このため、県、沿線市町は、上下分離の考え方を土台に輸送施設の整備、維持・補修に要する経費(人件費を除く。)を支援する。また、天竜浜名湖鉄道は、輸送施設の整備、維持・補修経費を除いた営業費用について営業収入で賄えるような収支改善を行い、全体の人件費を営業収入の範囲で賄う責任を負い、社員の意欲を高める賃金施策が実施できるようにする。
民間企業や他の団体 との関係(役割分担)	公共交通ネットワークを形成する企業として、他の企業と連携して、利用者にとって使いやすいダイヤ編成に努めている。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	H30 決算	H31 予算
県補助	地方鉄道事業	天竜浜名湖線(掛川～新所原 67.7Km)の運行	685,411	654,212
合 計			685,411	654,212

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H28	H29	H30	評価	
年間輸送人員(千人)	1,482	1,582	1,603	B	1,603 (H30)
	1,549	1,625	1,546		
年間旅客収入(千円)	425,564	452,059	461,950	B	461,950 (H30)
	404,285	432,079	417,142		
当期損益(千円)	△495	△583	6,429	B	6,429 (H30)
	2,434	△4,610	5,510		
()					()

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>平成30年度の輸送人員は1,546千人、前期比4.9%減となった。</p> <p>主な要因としては、平成29年12月に放送が終了した、NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」に関連する来訪者の減によるところであり、直虎関連の影響がなかった平成27年と比べると1.5%増と概ね順調に推移している。</p> <p>なお、当期損益が黒字になったのは、県・市町からの補助、保険金の受領などの特別利益と、固定資産の圧縮や災害損失などの特別損失を加減した結果である。</p>	△	<p>目標値には届かなかったものの、直虎の影響を除けば、年間輸送人員、旅客収入とも伸びていると判断される。</p> <p>新たな経営計画の目標をクリアするため、更に改善を図る必要がある。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>平成27年度以降、3年連続で輸送人員が増加しており、平成30年度は大河ドラマの終了に伴う影響により減となるも、地域の公共交通を担う会社として、その必要性が高まっている。</p> <p>また、前述のとおり、観光目的の利用者が増加しており、海外からも天竜浜名湖線への乗車体験を盛り込んだツアーや貸切列車の運行が実現するなど、観光振興の貢献も大きくなっている。</p> <p>更に、主に地域の有志で組織する天浜線サポーターズクラブの協力のもと、「どうまいグルメガイド」や「天浜線御朱印めぐりの旅」を作成したり、沿線企業と連携して、イベント列車の運行をしたり、沿線施設と協力してポータルサイト、天浜ナビを開設するなど、様々なかたちで地域との連携に努めており、団体の必要性は、これまで以上に高まっているところである。</p>	○	<p>天竜浜名湖鉄道は、モータリゼーションの進行などにより採算が悪化し、国鉄再建法に基づき廃止かバスへの転換か、あるいは第三セクター鉄道会社への転換かの選択を迫られた旧国鉄二俣線を存続させるため、県と沿線市町、地元企業の出資により開業した、地域が支える第三セクター鉄道であり、沿線地域の基幹的な公共交通機関として、地域の振興と住民福祉の向上に貢献している。また、日本の原風景ともいえる景観を楽しむことができるほか、全線にわたり文化財登録された鉄道施設は、地域の景観形成に寄与する貴重な財産であり、地域活性化や交流人口の増加に寄与している。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見 (経営健全性に係るもの以外)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
—	—	—
—	—	—
—	—	—

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区分	H28 決算	H29 決算	H30 決算	評価	備考（特別な要因等）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	3,612	-3,433	6,687	A	
	経常損益 (a+b-e-f)	-156,993	-157,334	-223,833	C	
	公益目的事業会計				—	
	収益事業等会計				—	
	法人会計				—	
剰余金	80,675	76,065	81,575	A		

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	H28 決算	H29 決算	H30 決算	主な増減理由等	H31 予算	
資産の状況	資産	585,587	568,310	463,109		460,824
	流動資産	519,074	506,464	404,251	補助事業減による未収金の減	403,981
	固定資産	66,513	61,846	58,858	減価償却による減	56,843
	負債	404,913	392,246	281,533		284,953
	流動負債	377,920	361,320	248,582	補助事業減による未払金の減	249,416
	固定負債	26,993	30,926	32,951	退職給付引当金の増	35,537
	正味財産/純資産	180,675	176,065	181,575		175,871
	基本財産/資本金	100,000	100,000	100,000		100,000
	剰余金等	80,675	76,065	81,575		75,871
	運用財産	0	0	0		0
収支の状況	事業収益 (a)	456,966	476,018	461,153	旅客者数の減	441,908
	うち県支出額 (県支出額/事業収益)	(.%)	(.%)	(.%)		(.%)
	事業外収益 (b)	2,941	526	425		0
	うち基本財産運用益	—	—	—		—
	特別収益 (c)	473,668	392,558	992,742	受贈財産の増	342,587
	うち基本金取崩額	—	—	—		—
	収入計 (d=a+b+c)	933,575	869,102	1,454,320		784,495
	事業費用 (e)	616,900	633,878	685,411	修繕費の増	675,581
	うち人件費 (人件費/事業費用)	376,135 (61.%)	390,843 (61.7%)	395,016 (57.6%)	定期昇給等	394,794 (58.4%)
	事業外費用 (f)	0	0	0		0
	特別損失 (g)	313,063	238,657	762,222	固定資産の圧縮	107,930
支出計 (h=e+f+g)	929,963	872,535	1,447,633		783,511	
収支差 (d-h)	3,612	-3,433	6,687		984	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

収入増に向けてマスコミへ積極的な資料提供を行っており、30年度は139回、新聞に掲載されている(29年度は67回)。
 また、SNSによる情報発信にも積極的に努めている。
 加えて、沿線の草刈りに地元自治会等と連携することで、経費節減に努めている。
 一方で、老朽化した鉄道施設を維持するための修繕経費及び維持管理費が増大したことはやむを得ない。
 今年度から始まった5カ年計画において、計画的に施設整備を行っていく。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

--

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	本来の目的である鉄道事業以外の収入が乏しく、特別収益(補助金)に依存する部分が大きくなっている。 鉄道利用者は増加しているが、経常損益の黒字化については困難な状況にある。	△	平成30年度の輸送人員は前年度に比べ4.9%減となっているが、NHK大河ドラマの影響がなかった平成27年度と比べると1.5%増と概ね順調に推移しており評価できる。一方で、老朽化した施設の維持、修繕に費用がかかっていることから、更なる経費節減に努めながら、安全運行を確保するための施設維持や修繕に努める。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
—	—	—
—	—	—
—	—	—

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>安全・安定した列車運行のため、計画的な設備投資や社員に対する教育訓練の充実により、安全の確保に努めていく。</p> <p>また、2023年度に年間利用者160万人を達成するため、DCキャンペーンと連携した新たな誘客事業や沿線地域の魅力を最大限活かした誘客事業を推進する。</p>	<p>経営計画2019～2023に基づいた事業運営に努めていく。経費削減に努めながら安全運行を確保するため施設維持や修繕を進めるとともに、ニーズに対応した魅力の発掘や訪日外国人観光客の誘客、メディア等を活用した積極的な情報発信などで旅客収入の増加につなげ、経営改善を図る。</p>

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>安全な運行に向けて、軌道や踏切、土木構造物の整備を行うとともに、社員教育の徹底を図っている。</p> <p>5月には三陸鉄道と交流協定を締結し、交流を進めている。</p> <p>また、元号改元に際しては、記念入場券を販売したり、記念コースターの販売を行っている。</p> <p>更にニコニコ超会議へ初めて参加し、PRや物販に努めたほか、10月には鉄道フェスティバルへの参加を予定している。</p>	<p>直虎の影響がなかった平成27年と比較すると、輸送人員及び旅客収入は右肩上がりと言える。沿線の魅力ある観光資源と天浜線の利用促進とを結びつける取り組みを進め、また、新聞やテレビ、雑誌などメディアを使った積極的な情報発信を行った結果と評価している。</p>

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H28	H29	H30	H31	備考(増減理由等)
常勤役員数	3	3	3	3	
うち県派遣	2	2	2	2	
うち県OB					
常勤職員数	70	68	74	73	
うち県派遣					
うち県OB					
県支出額	218,179	199,607	173,777	229,643	
補助金	218,179	199,607	173,777	229,643	経営助成金の増
委託金					
その他					
県からの借入金					
県損失補償等					

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・損失補償等は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画(2019~2023)」に人員配置計画を定め、組織体制の効率化に努めている。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制としている。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	—	

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	危機管理能力を備えた的確な業務執行を確保するため、常勤取締役2名体制は必要、有効と認められる。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	平成30年度に策定した「天竜浜名湖鉄道経営計画(2019~2023)」に定めた補助金支出額により、計画的及び効率的に事業を進めている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	—	天竜浜名湖線市町会議による外部評価委員会をH30年10月に開催した。	・概ね計画どおりに事業が進行していて評価できる。 ・厳しい環境での利用者の増加は評価できる。
利用者アンケート	—	—		
利用者等意見交換会	○	—	毎月開催される天浜線サポーターズクラブ定例会で意見を聴取している。また、掛川市や森町の「天浜線を愛する会」総会で経営状況を説明し、出席者と社長が意見交換を行っている。 なお、いずれも天竜浜名湖鉄道株式会社の主催でないため、公表にあたっては主催者との調整が必要である。	下記2に記載
その他 (お客様御意見箱)	○	—	各有人駅において、設置している。	下記2に記載

○:実施している／公表している —:実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

<p>【利用者意見等活用の具体例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅ホームや駅舎へのイルミネーションの設置 ・駅舎内の椅子の改修、駅ホーム電灯のLED化、駅構内への雨天時の滑り止めの実施 ・天浜ヘルシーウォークコースへの意見反映 ・イベント列車のカラオケ曲の更新 ・見やすい時刻表制作 ・路線図の掲出 ・利便性を向上したダイヤ設定
